

編 集 後 記

2013年4月から本誌の編集委員の一人に任命されてから早7年が過ぎました。症例報告や短報を査読させていただき、いつも勉強させていただいております。

第55巻1号からオープンアクセス電子ジャーナルに移行し早5年。神経学会会員のみならず一般の読者も閲覧可能となり、本誌に掲載された症例報告や総説が数多くダウンロードされています。英文誌ではオープンアクセスジャーナルが急増していますが、Article Processing Chargeは決して安くはありません。本誌はオープンアクセスジャーナルですが高額請求は致しません。

1960年に発刊され60年の歴史を持つ脳神経内科の専門誌です。厳しい査読を受け、一定の基準に到達した論文のみが掲載されています。世界的基準でtimelyに投稿された優れた論文のみを掲載しています。一旦acceptされれば短期間にon-line上に公開され、英文抄録はPubMed/MEDLINEに掲載されます。誰も知らない、見たこともないかも知れない、皆様が経験された症例をまず本誌に掲載して下さい。その後、数例～6, 7例集まったところで、本誌に掲載した症例報告を引用しながら、英文誌にsmall case seriesとして投稿してはいかがでしょうか？

私は中枢神経系の自己免疫疾患分野の査読を主に担当しています。今や世界はインターネットでつながっています。

海外では診断できるのに国内では診断の鍵となる自己抗体が測定できないために、一部の自己抗体のみを測定し、診断根拠が曖昧なまま加療をしていることはないでしょうか？ 日常診療ではやむを得ないかも知れませんが、症例報告としては不十分です。世界に発信している脳神経内科専門誌としては、鑑別診断が十分にされていない症例報告はacceptすることはできません。常に知識をup dateし、世界に視野を広げ、目に見えない真の原因を見つけ出す努力をし続けて下さい。

皆様が診療をしていて「いつもとは違う。何かがおかしい。非典型的だ」とふと気づかれた時、それこそが「ひらめき」であり、疾患の病態を解き明かすヒントになるかも知れません。それを深く掘り下げ、神経徴候、検査所見、あるいは画像所見を報告して下さい。いつか世界の誰かが類似例を経験した時、PubMed/Medlineで検索し、先生の論文を目にすることにより、遠く離れた地での診断・治療の一助となるでしょう。

私も本誌の編集委員としての任期は残りわずかとなりました。一緒に症例を掘り下げ、さらに磨きをかけ、価値ある症例報告にしましょう。皆様からのさらなる投稿をお待ちしております。

(飯塚 高浩)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡 古賀 政利
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

〔臨床神経学〕 第60巻 第10号 2020年10月1日発行
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 戸田 達史
 印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>